

都市再生整備計画 事後評価シート

小川地区

平成23年12月

熊本県 宇城市

都道府県名	熊本県	市町村名	宇城市	地区名	小川地区	面積	300ha
交付期間	平成20年度～平成23年度	事後評価実施時期	平成23年度	交付対象事業費	590百万円	国費率	0.40

1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	【公園】(益南広場)、【地域生活基盤整備】(施設情報案内板)、【高次都市施設】(益南広場)						
		提案事業	【地域創造支援事業】(宇城市観音山ふれあいの里、クラブハウス)、【事業活用調査】(事業効果分析)、【まちづくり活動推進事業】(生涯スポーツイベント、NPO等活動支援、拠点活用ワークショップ、各種イベント)						
		事業名	削除/追加の理由				削除/追加による目標、指標、数値目標への影響		
	当初計画から削除した事業	基幹事業	なし	—				—	
		提案事業	なし	—				—	
	新たに追加した事業	基幹事業	【道路】(市道益中線、市道河江2号線)	基幹事業として整備する多目的広場(人工芝コート等)の利用者など歩行者の安全性を確保するため、外周道路2路線の整備を追加した。				指標(利用者数)への影響は間接的であるため、数値目標への影響は少ないと判断し、据え置く。	
	提案事業	なし	—				—		
交付期間の変更	当初変更	平成20年度～平成23年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		—				

2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
				基準年度		目標年度	モニタリング	評価値					
	指標1	広場及び公園利用者及び来訪者数	人/年	72,515	H18	100,000	H23	—	132,227	○	あり	人工芝コート、屋内多目的コート、クラブハウス、寄宿舎を一体的に整備した市立ふれあいスポーツセンターの整備は、既設の観音山総合運動公園とともに、市の生涯スポーツゾーンとして位置づけられる小川地域の拠点性を高めた。また、NPO法人スポーツアカデミー熊本宇城の活動支援、同法人主催によるイベント活動の活性化、まちづくりの方向を検討する地域住民によるワークショップ開催、案内板整備はスポーツセンターの認知度を高めた。これらの相乗効果により、ふれあいスポーツセンター、観音山運動公園等の利用者及び来訪者が増加した。	H24.4
	指標2	宇城市観音山ふれあいの里及びクラブハウス利用者数	人/年	1,354	H18	2,000	H23	—	2,829	○	あり	観音山ふれあいの里(宿泊研修施設)は築16年を経過し老朽化していたが、施設改修により耐久性・安全性が確保され、団体宿泊を中心に利用者数が増加した。クラブハウスについては人工芝コート、屋内多目的コートにおけるサッカーやイベント利用により宿泊室の宿泊者及び休憩利用者数が増加した。	H24.4
	指標3	NPO法人スポーツアカデミー熊本宇城の賛助会員数	人/年	0	H19	380	H23	—	31	×	あり	当初は賛助会員数314名を確保していたが、登録更新が進まず、見込み値は目標値(380人)の10分の1程度にとどまった。ただし、同法人によるイベント活動等は地域の交流機会を生み出すことに結びついており、活動理念への賛同者も増加しているものと考えられ、評価できるものである。	H24.4
	指標4										ありなし		

3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値		数値		目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
				基準年度		目標年度	モニタリング	評価値				
	その他の数値指標1	イベント開催回数	回/年	68	H19		—	98			従来の観音山総合運動公園、稲川グラウンドに加えて、市立ふれあいスポーツセンターを整備したことにより、イベント開催の場としての魅力が高まった。また、NPO法人スポーツアカデミー熊本宇城の活動を支援したこと、地域住民によるワークショップ開催による認知度の向上等とあいまって集客力のあるイベント等が開催された。	H24.4
	その他の数値指標2											
	その他の数値指標3											
	その他の数値指標4											
その他の数値指標5												

4)定性的な効果発現状況	・市立ふれあいスポーツセンターの外周にあたる市道益中線、市道河江2号線の歩道整備によって、安全な歩行空間が実現し、車道にはみだして歩行する子どもを見かけなくなったとの声が聞かれるようになった。 ・市立ふれあいスポーツセンターの整備は、街なかに見た目が綺麗な場所ができたこと、夜間でも練習している明かりが見えることなど、市民にも生徒にも良い影響があるとの意見があがっている。											
--------------	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

5)実施過程の評価	実施内容		実施状況		今後の対応方針等		
	モニタリング	各種事業を円滑に推進し、目標に向かって確実な効果をあげるため、NPO等の各種団体と協働し、事業効果についての評価や事業の進め方を検証する。	都市再生整備計画に記載し、実施できた	都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した	都市再生整備計画に記載はなかった	利用者ニーズに対応した質の高いサービスを提供するため指定管理者制度の導入を検討するものとし、併せて指定管理者を中心とした事業効果の計測、改善手法の提案などの仕組みを構築することを検討する。	
	住民参加プロセス	地域住民ワークショップを開催し、ふれあいスポーツセンター及び観音山総合運動公園の利活用を検討。	都市再生整備計画に記載し、実施できた		●	NPOや地元関連団体と連携し、施設の利活用について引き続き検討する。	
		地区住民アンケート、地元小中学生アンケートを実施。	都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した			地域住民等の要望や満足度を的確に把握し、施設の利活用の改善に機敏に反映するため、意見箱を設置した。	
	持続的なまちづくり体制の構築	NPO法人スポーツアカデミー熊本宇城の育成。	都市再生整備計画に記載し、実施できた	都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した	都市再生整備計画に記載はなかった	●	NPO団体の活動やイベントの開催に際して広報に掲載するなど引き続き事業を支援していく。

様式2-2 地区の概要

小川地区(熊本県宇城市) 都市再生整備計画の成果概要									
まちづくりの目標		目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
大目標:地域資源を活かし、生涯スポーツを通じた地域間の交流促進や安全・安心な地域コミュニティの形成を図るまちづくり		広場及び公園利用者と及び来訪者数	単位:人/年	72,515	H18	100,000	H23	132,227	H23
目標1	地域資源である総合運動公園をはじめとした多目的広場等の機能を高め、来訪者及び利用者の満足性・利便性の向上を図る。	宇城市観音山ふれあいの里及びクラブハウス利用者数	単位:人/年	1,354	H18	2,000	H23	2,829	H23
目標2	生涯スポーツによる都市と地域の交流を通じ、来訪者及び地域住民などと施設の利用者数の増加を図る。	NPO法人スポーツアカデミー熊本宇城の賛助会員数	単位:人/年	0	H19	380	H23	31	H23
目標3	地域の防災性を確保することにより、地域基盤の整備基準が向上でき、安全・安心な地域コミュニティの形成を図る。	イベント開催回数	回/年	68	H19	-	-	98	H23

■基幹事業
公園 多目的広場整備

■基幹事業
公園 屋内多目的広場整備

■基幹事業
道路 河江2号線道路改良

■基幹事業
道路 益中線道路改良

■基幹事業
公園 夜間照明施設整備

■基幹事業
公園 防護ネット施設整備

■基幹事業
公園 給水・散水施設整備

□提案事業
生涯スポーツイベント

□提案事業
拠点活用ワークショップ

□提案事業
事業効果分析

□提案事業
NPO等支援活動

□提案事業
各種イベント

■基幹事業
高次都市施設整備 クラブハウス 施設整備

□提案事業
クラブハウス 施設整備

□関連事業
寄宿舎 施設整備

□提案事業
宇城市観音山ふれあいの里施設整備

■基幹事業
地域生活基盤施設 施設情報案内板

凡 例

■ 基幹事業

□ 提案事業

--- 関連事業

まちの課題の変化	・スポーツが盛んな地域性、既存の総合運動公園を活かし、市立ふれあいスポーツセンターを新たに整備したことに加え、NPO法人スポーツアカデミー熊本宇城が設立され、同法人が日本で2番目となるJFAサッカーアカデミー（JFAアカデミー熊本宇城による中1～3年選手の育成等）を誘致したことで、特に九州のサッカー関係者の知名度は向上した。 ・人工芝コート、屋内多目的コート、クラブハウス、寄宿舎を一体的に整備した市立ふれあいスポーツセンターの整備は、既存の観音山総合運動公園に集中していた大会・合宿を分散、連携することで、市の生涯スポーツゾーンとしての小川地域の拠点性を高め、スポーツを通じた地域内外の交流が活発化した。 ・イベントなどへの地域住民の参加を通じて、地域交流、地域内のふれあいやコミュニケーションが活発化した。 ・市立ふれあいスポーツセンターの人工芝コート、屋内多目的コート等の整備により、避難地として利用可能な広場（空地）が増加した。
今後のまちづくりの方策（改善策を含む）	・次世代を担う子どもたちを含めた地域住民を対象として、今後も積極的なイベント活動の推進と支援を継続していく。 ・民間事業者等が有するノウハウを活用し、質の高いサービスの提供、PDCAサイクルによるサービスの改善、コスト低減などを目指す。 ・本事業の計画区域外の未整備区間における歩道整備、広場利用、利用団体、地域住民等への観戦マナーの啓発により所要の歩道幅員を確保し、安心・安全な歩行空間を形成する。 ・観音山ふれあいの里の老朽化した備品等の交換によるイメージ刷新、利用者ニーズへの対応や工夫を図る。

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1－① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1－② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2－① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2－② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2－参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3－① モニタリングの実施状況
- 添付様式3－② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3－③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4－① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4－② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4－③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5－① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5－② まちの課題の変化
- 添付様式5－③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5－参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5－④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6－参考記述 今後、交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値		●			
D. その他()		●			

添付様式1－② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	市道益中線	-	-	90	L=310m	基幹事業として整備する多目的広場(人工芝コート等)の利用者など歩行者の安全性を確保するため追加した。	指標(利用者数)への影響は間接的であるため、数値目標への影響は少ないと判断し、据え置く。		●
道路	市道河江2号線	-	-	12	L=90m	基幹事業として整備する多目的広場(人工芝コート等)の利用者など歩行者の安全性を確保するため追加した。	指標(利用者数)への影響は間接的であるため、数値目標への影響は少ないと判断し、据え置く。		●
公園	益南広場	300	A=18,228.62㎡	282	A=18,228.62㎡	事業費を精査した結果、事業費を減額した。	指標(利用者数)への影響は間接的であるため、数値目標への影響は少ないと判断し、据え置く。	●	
地域生活基盤施設	-	5	施設情報等案内板	5	情報案内板=1基	変更なし	-	●	
高次都市施設	益南広場	81	1棟、A=451.26㎡	75	1棟、A=375.38㎡	基幹事業で実施予定のクラブハウス内の一部施設を提案事業で実施することに伴い、規模を縮小し、減額した。	指標(利用者数)への影響は間接的であるため、数値目標への影響は少ないと判断し、据え置く。	●	

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1－② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

提案事業

事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地域創造 支援事業	宇城市観音山ふれあいの里	20	1棟	20	1棟	変更なし	—	●	
	クラブハウス	69	1棟、A=386.70㎡	90	1棟、A=452.44㎡	基幹事業で実施予定のクラブハウスの一部施設を提案事業で実施することに伴い、増額、規模を拡大した	指標(利用者数)への影響は間接的であるため、数値目標への影響は少ないと判断し、据え置く。	●	
事業活用調査	事業効果分析	5	—	5	—	変更なし	—		●
まちづくり 活動推進事業	生涯スポーツイベント	3	—	3	—	変更なし	—	●	
	NPO等支援	3	—	3	—	変更なし	—	●	
	拠点活用ワークショップ	3	—	3	—	変更なし	—	●	
	各種イベント	3	—	3	—	変更なし	—		●

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

(参考) 関連事業

[illegible]

添付様式 2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指 標			データの計測手法と 評価値の求め方 （時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等）	（参考）※1 計画以前の値 （ア）		従前値 （イ）		目標値 （ウ）		数値（エ）			目標達成度※2		1年以内の 達成見込みの 有無	
	単位				基準 年度		基準 年度		目標 年度					あり	なし	
指標 1	広場及び公園利用者 及び来訪者数	人/年	平成18～22年度の観音山総合運動公園（グラウンド及びテニスコート）、稲川グラウンド、フットボールセンター（人工芝コート及び屋内コート）の利用者及び来訪者数を、スポーツ振興課（観音山総合運動公園、稲川グラウンド所管課）に確認し、平成23年度1年間の利用者数を推計・把握する。 これら推計結果を合算し、評価基準日【平成24年3月31日】の評価値（見込値）とする。	－	－	72,515	H18	100,000	H23	モニタリング	－	－	モニタリング	－		
										事後評価	確定		132,227	事後評価		
										見込み	●					
指標 2	宇城市観音山ふれあいの里及びクラブハウス利用者数	人/年	平成18～22年度の観音山ふれあいの里、クラブハウス利用状況をスポーツ振興課（観音山ふれあいの里所管課）に確認し、平成23年度1年間の利用者数（宿泊施設）を推計・把握する。 これら推計結果を合算し、評価基準日【平成24年3月31日】の評価値（見込値）とする。	－	－	1,354	H18	2,000	H23	モニタリング	－	－	モニタリング	－		
										事後評価	確定		2,829	事後評価		
										見込み	●					
指標 3	NPO法人スポーツアカデミー熊本宇城の賛助会員数	人/年	本指標は計測時期（7月1日）においては計測困難であるため、平成22年度末時点の賛助会員数を平成23年度の賛助会員数の評価値（見込値）とし、評価基準日【平成24年3月31日】の評価値（見込値）とする。	－	－	0	H19	380	H23	モニタリング	－	－	モニタリング	－		●
										事後評価	確定		31	事後評価		
										見込み	●					
指標 4										モニタリング	－	－	モニタリング	－		
										事後評価	確定			事後評価		
										見込み						
指標 5										モニタリング	－	－	モニタリング	－		
										事後評価	確定			事後評価		
										見込み						
指標 6										モニタリング	－	－	モニタリング	－		
										事後評価	確定			事後評価		
										見込み						
指 標	目標達成度○△×の理由 （達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む）								その他特記事項 （指標計測上の問題点、課題等）							
指標 1	観音山総合運動公園、ふれあいスポーツセンターの施設の充実、周辺道路や情報案内板の充実により利便性が向上したこと、また、住民ワークショップやアンケート等の実施により施設の認知度が向上したことにより目標を達成したと判断した。								－							
指標 2	上記の施設等の充実に加え、スポーツイベントをはじめとする各種イベントの実施により地域交流拠点としての魅力が向上したため目標を達成したと判断した。								観音山ふれあいの里（宿泊研修施設）については宿泊者及び昼間・夜間利用者、クラブハウスについては宿泊室の宿泊者及び休憩利用者を合計した値としており、すべての利用者数を計測しているものではない。							
指標 3	当初は賛助会員数314名を確保していたが、登録更新が進まず、平成22年度31名、平成23年8月現在35名と減少。1年単位の登録制であり、登録更新を促す仕組みをつくるとともに、増加した利用者を会員登録につなげるためイベント実施時にPRするなどの取り組みを推進する。								当会員は正会員と賛助会員に区分され、それぞれ個人登録、団体登録によって入会金・年会費が異なる。指標3で定義する賛助会員は「個人の賛助会員」と「法人の賛助会員」を合計した会員数としており、正会員は含まれていない。							
指標 4																
指標 5																
指標 6																

添付様式 2－② その他の数値指標（当初設定した数値目標以外の指標）による効果発現の計測

指 標			データの計測手法と 評価値の求め方 （時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等）	（参考）※1 計画以前の値 （ア）		従前値 （イ）		数値（ウ）			本指標を取り上げる理由	その他特記事項 （指標計測上の問題点、課 題等）
	単位				基準 年度		基準 年度					
その他の 数値指標 1	イベント開催回数	回/年	観音山総合運動公園、稲川グラウンドはH18～H22年度の開催状況により、H23年度の開催数を推計する。宇城市立ふれあいスポーツセンターはH21年4月より供用開始のため、H21、H22年度の開催状況により、H23年度の開催数を推計する。 これら推計結果を合算し、評価基準日【平成24年3月31日】の評価値（見込値）とする。 H18～H22年度の開催状況は、スポーツ振興課、NPO法人スポーツアカデミー熊本宇城事務局、小川公民館に確認する。	-		68	H19	モニタリング	-	-	イベントの開催回数の増減によって目標 2 の生涯スポーツによる都市と地域の交流、目標 3 に掲げる安全・安心な地域コミュニティの形成の状況を説明する。	観音山ふれあいの里やクラブハウスの施設利用者数以外での効果を示すことで、目標 2 を補完する。 また、市立ふれあいスポーツセンターが避難地として利用可能な広場（空地）であることを、地域住民の集まりやすさという観点からイベント開催数により説明する。
								事後評価	確定			
その他の 数値指標 2								モニタリング	-	-		
								事後評価	確定			
その他の 数値指標 3								モニタリング	-	-		
								事後評価	確定			
その他の 数値指標 4								モニタリング	-	-		
								事後評価	確定			
その他の 数値指標 5								モニタリング	-	-		
								事後評価	確定			

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前（概ね10年程度前）の値のことをいう。

添付様式 2－参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

・市立ふれあいスポーツセンターの外周にあたる市道益中線、市道河江2号線の歩道整備によって、安全な歩行空間が実現し、車道にはみだして歩行する子どもを見かけなくなったとの声が聞かれるようになった。
・市立ふれあいスポーツセンターの整備は、街なかに見た目が綺麗な場所ができたこと、夜間でも練習している明かりが見えることなど、市民にも生徒にも良い影響があるとの意見があがっている。

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3ー① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
各種事業を円滑に推進し、目標に向かって確実な効果をあげるため、NPO等の各種団体と協働し、事業効果についての評価や事業の進め方を検証する。	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由 体制未整備のため)	● —	利用者ニーズに対応した質の高いサービスを提供するため指定管理者制度の導入を検討するものとし、併せて指定管理者を中心とした事業効果の計測、改善手法の提案などの仕組みを構築することを検討する。
	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3ー② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
地域住民ワークショップを開催し、ふれあいスポーツセンター及び観音山総合運動公園の利活用を検討。	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)	● 【実施頻度】6回 【実施時期】平成22年度 【実施結果】ワークショップでは施設の利活用の方向性と実現に向けた課題がとりまとめられ、今後の取り組みにあたっては地域全体が一丸となって活動できる体制づくりに向けた方針を提言している。	NPOや地元関連団体と連携し、施設の利活用について引き続き検討する。
地区住民アンケート、地元小中学生アンケートを実施。	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)	● 【実施頻度】各1回 【実施時期】平成22年度 【実施結果】アンケートにより施設の認知度、利活用の実態、要望(イベント、利用料金など)を明らかにしている。	地域住民等の要望や満足度を的確に把握し、施設の利活用の改善に機敏に反映するため、意見箱を設置した。

添付様式3ー③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名・組織の概要	
NPO法人スポーツアカデミー熊本宇城の育成。	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)	● イベントを通じた交流からまちづくり活動への展開を目指し、次世代を担う子どもたちを含め地域住民を対象とした「スポーツや日常生活で活かせるコーディネーショントレーニング」、「走力向上クリニック」、「小・中学生サッカー大会」などを実施した。	【組織名】NPO法人スポーツアカデミー熊本宇城 【組織の概要】宇城市内はもとより熊本県及び西日本地域におけるスポーツ活動の普及及び振興を図り、スポーツを通してのまちづくり、地域活性化、人材育成に関する事業を行い、地域社会の貢献活動に寄与する組織。	NPO団体の活動やイベントの開催に際して広報に掲載するなど引き続き事業を支援していく。
	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内検討会	事業担当課の職員(企画課、スポーツ振興課、小川支所建設課)	平成23年10月5日(水)	宇城市企画部企画課まちづくり推進係

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1		指標2		その他の数値指標1					
指 標 名		広場及び公園利用者及び来訪者数		宇城市観音山ふれあいの里及びクラブハウス利用者数		イベント開催回数					
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	市道益中線	○	人工芝コート、屋内多目的コート、クラブハウス、寄宿舍を一体的に整備した市立ふれあいスポーツセンターの整備は、既設の観音山総合運動公園とともに、市の生涯スポーツゾーンとして位置づけられる小川地域の拠点性を高めた。また、NPO法人スポーツアカデミー熊本宇城の活動支援、同法人主催によるイベント活動の活発化、まちづくりの方向を検討する地域住民によるワークショップ開催、案内板整備はスポーツセンターの認知度を高めた。これらの相乗効果により、ふれあいスポーツセンター、観音山運動公園等の利用者及び来訪者が増加した。	○	観音山ふれあいの里(宿泊研修施設)は築16年を経過し老朽化していたが、施設改修により耐久性・安全性が確保され、団体宿泊を中心に利用者数が増加した。クラブハウスについては人工芝コート、屋内多目的コートにおけるサッカーやイベント利用により宿泊室の宿泊者及び休憩利用者数が増加した。	-	従来の観音山総合運動公園、稲川グラウンドに加えて、市立ふれあいスポーツセンターを整備したことにより、イベント開催の場としての魅力が高まった。また、NPO法人スポーツアカデミー熊本宇城の活動を支援したこと、地域住民によるワークショップ開催による認知度の向上等とあいまって集客力のあるイベント等が開催された。				
	市道河江2号線	○		○		-					
	益南広場	◎		○		◎					
	施設情報案内板	○		○		○					
	益南広場(クラブハウス施設整備)	○		◎		○					
提案事業	宇城市観音山ふれあいの里	○	人工芝コート、屋内多目的コート、クラブハウス、寄宿舍を一体的に整備した市立ふれあいスポーツセンターの整備は、既設の観音山総合運動公園とともに、市の生涯スポーツゾーンとして位置づけられる小川地域の拠点性を高めた。また、NPO法人スポーツアカデミー熊本宇城の活動支援、同法人主催によるイベント活動の活発化、まちづくりの方向を検討する地域住民によるワークショップ開催、案内板整備はスポーツセンターの認知度を高めた。これらの相乗効果により、ふれあいスポーツセンター、観音山運動公園等の利用者及び来訪者が増加した。	◎	観音山ふれあいの里(宿泊研修施設)は築16年を経過し老朽化していたが、施設改修により耐久性・安全性が確保され、団体宿泊を中心に利用者数が増加した。クラブハウスについては人工芝コート、屋内多目的コートにおけるサッカーやイベント利用により宿泊室の宿泊者及び休憩利用者数が増加した。	◎	従来の観音山総合運動公園、稲川グラウンドに加えて、市立ふれあいスポーツセンターを整備したことにより、イベント開催の場としての魅力が高まった。また、NPO法人スポーツアカデミー熊本宇城の活動を支援したこと、地域住民によるワークショップ開催による認知度の向上等とあいまって集客力のあるイベント等が開催された。				
	クラブハウス	○		◎		○					
	事業効果分析										
	生涯スポーツイベント	◎		◎		◎					
	NPO等活動支援	◎		◎		○					
	拠点活用ワークショップ	○		○		○					
関連事業	各種イベント	◎	人工芝コート、屋内多目的コート、クラブハウス、寄宿舍を一体的に整備した市立ふれあいスポーツセンターの整備は、既設の観音山総合運動公園とともに、市の生涯スポーツゾーンとして位置づけられる小川地域の拠点性を高めた。また、NPO法人スポーツアカデミー熊本宇城の活動支援、同法人主催によるイベント活動の活発化、まちづくりの方向を検討する地域住民によるワークショップ開催、案内板整備はスポーツセンターの認知度を高めた。これらの相乗効果により、ふれあいスポーツセンター、観音山運動公園等の利用者及び来訪者が増加した。	◎	観音山ふれあいの里(宿泊研修施設)は築16年を経過し老朽化していたが、施設改修により耐久性・安全性が確保され、団体宿泊を中心に利用者数が増加した。クラブハウスについては人工芝コート、屋内多目的コートにおけるサッカーやイベント利用により宿泊室の宿泊者及び休憩利用者数が増加した。	◎	従来の観音山総合運動公園、稲川グラウンドに加えて、市立ふれあいスポーツセンターを整備したことにより、イベント開催の場としての魅力が高まった。また、NPO法人スポーツアカデミー熊本宇城の活動を支援したこと、地域住民によるワークショップ開催による認知度の向上等とあいまって集客力のあるイベント等が開催された。				
関連事業	寄宿舍(益南広場)	○	人工芝コート、屋内多目的コート、クラブハウス、寄宿舍を一体的に整備した市立ふれあいスポーツセンターの整備は、既設の観音山総合運動公園とともに、市の生涯スポーツゾーンとして位置づけられる小川地域の拠点性を高めた。また、NPO法人スポーツアカデミー熊本宇城の活動支援、同法人主催によるイベント活動の活発化、まちづくりの方向を検討する地域住民によるワークショップ開催、案内板整備はスポーツセンターの認知度を高めた。これらの相乗効果により、ふれあいスポーツセンター、観音山運動公園等の利用者及び来訪者が増加した。	○	観音山ふれあいの里(宿泊研修施設)は築16年を経過し老朽化していたが、施設改修により耐久性・安全性が確保され、団体宿泊を中心に利用者数が増加した。クラブハウスについては人工芝コート、屋内多目的コートにおけるサッカーやイベント利用により宿泊室の宿泊者及び休憩利用者数が増加した。	○	従来の観音山総合運動公園、稲川グラウンドに加えて、市立ふれあいスポーツセンターを整備したことにより、イベント開催の場としての魅力が高まった。また、NPO法人スポーツアカデミー熊本宇城の活動を支援したこと、地域住民によるワークショップ開催による認知度の向上等とあいまって集客力のあるイベント等が開催された。				

※指標改善への貢献度

- ◎：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- ：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △：事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- ：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	ワークショップで検討した施設の利活用の方向性をふまえ、利用者及び来訪者の増大を目指す。	観音山ふれあいの里は老朽化している備品・器具等の交換等によりイメージを刷新し、クラブハウスは研修・会議室の利用促進により、宿泊・利用者数のさらなる増大を目指す。	イベントを通じた交流からまちづくり活動への展開を目指し、次世代を担う子どもたちを含めた地域住民を対象として、今後も積極的なイベント活動の推進と支援を継続していく。		
-------	---	--	---	--	--

添付様式4ー③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標3														
指 標 名		NPO法人スポーツアカデミー 熊本宇城の賛助会員数														
種別	事業名・箇所名	目標 未達成への 影響度	総合所見	要因の 分類	目標 未達成への 影響度	総合所見	要因の 分類	目標 未達成への 影響度	総合所見	要因の 分類	目標 未達成への 影響度	総合所見	要因の 分類	目標 未達成への 影響度	総合所見	要因の 分類
基幹事業	市道益中線	－	当初は賛助会 員数314名を 確保していた が、登録更新 が進まず、見 込み値は目標 値(380人)の 10分の1程度 にとどまった。 ただし、同法 人によるイベ ント活動等は 地域の交流機 会を生み出す ことに結びつ いており、活 動理念への賛 同者も増加し ているものと 考えられ、評 価できるもの である。	Ⅲ												
	市道河江2号線	－														
	益南広場	△														
	施設情報案内板	－														
	益南広場(クラブハウス施設整備)	△														
提案事業	宇城市観音山ふれあいの里	－														
	クラブハウス	△														
	事業効果分析	－														
	生涯スポーツイベント	△														
	NPO等活動支援	△														
	拠点活用ワークショップ	△														
	各種イベント	△														
関連事業	寄宿舎(益南広場)	△														

※目標未達成への影響度
××：事業が効果を発揮せず、
指標の目標未達成の直接的な原因となった。
×：事業が効果を発揮せず、
指標の目標未達成の間接的な原因となった。
△：数値目標が達成できなかった中でも、
ある程度の効果をあげたと思われる。
－：事業と指標の間には、もともと関係がないことが
明確なので、評価できない。

※要因の分類
分類Ⅰ：内的な要因で、予見が可能な要因。
分類Ⅱ：外的な要因で、予見が可能な要因。
分類Ⅲ：外的な要因で、予見が不可能な要因。
分類Ⅳ：内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必 須)	1年単位の登録制であることを ふまえ、退会した会員、現 会員に対して再登録、登録更 新を促す案内、広報活動を実 施するなど再登録に向けた取 り組みを積極的に推進する。 併せて、スポーツ大会等のイ ベント実施時に活動理念等を PRし、賛同者の増大を図り、 新規の会員登録に向けた取り 組みを推進する。				
----------------------	---	--	--	--	--

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5ー① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内検討会	事業担当課の職員(企画課、スポーツ振興課、小川支所建設課)	平成23年10月5日(水)	宇城市企画部企画課まちづくり推進係

添付様式5ー② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
地域が有する資源、既存施設を有効に活用し、知恵と工夫により他に先駆けて実施し、地域の活性化を図る必要がある。	柔道、サッカーで日本代表を輩出するなどスポーツが盛んな地域性、既存の観音山総合運動公園を活かしながら、市立ふれあいスポーツセンターを新たに整備したことに加え、NPO法人スポーツアカデミー熊本宇城が設立され、同法人が日本で2番目となるJFAサッカーアカデミー(JFAアカデミー熊本宇城による中1～3年選手の育成等)を誘致したことで、特に九州のサッカー関係者の知名度は向上、利用者も増加している。	・伸び悩んでいるNPO法人スポーツアカデミー熊本宇城の会員数を増加させるため、利用者ニーズに対応したより質の高いサービスの提供	【歩道整備に伴う課題】市道益中線、市道河江2号線の歩道整備により、歩道からサッカー等を観戦する人が増えており、歩行者の通行を阻害している。
スポーツ施設の充実により、宇城市の生涯スポーツゾーンとして確立し、旧小川町の活性化を図る必要がある。	人工芝コート、屋内多目的コート、クラブハウス、寄宿舎を一体的に整備した市立ふれあいスポーツセンターの整備は、既設の観音山総合運動公園に集中していた大会・合宿を分散、連携することで、市の生涯スポーツゾーンとしての小川地域の拠点性を高め、スポーツを通じた地域内外の交流が活発化している。	【市道益中線】本事業の計画区域外の未整備区間における歩道整備 【観音山ふれあいの里】老朽化している備品・器具等の交換 【クラブハウス】研修・会議室の利用促進	
来訪者の通過地域ではなく、交流地域となるべく、周辺地域や各種団体と連携した生涯スポーツレクリエーション構想を構築する必要がある。	イベントなどへの地域住民の参加を通じて、地域交流、地域内のふれあいやコミュニケーションも活発化している。	-	
事業により整備する多目的広場を緊急避難地(防災公園)として位置づける必要がある。	市立ふれあいスポーツセンターの人工芝コート、屋内多目的コート等の整備により、避難地として利用可能な広場(空地)が増加した。	-	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5ー③ 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
	スポーツを活用した地域の活性化	・NPO法人スポーツアカデミー熊本宇城によりスポーツ活動を普及・振興・誘致 ・次世代を担う子どもたちを含めた地域住民を対象として、今後も積極的なイベント活動を継続	・NPO法人のイベント活動の推進と支援 ・意見箱の設置
	避難地として利用可能な広場(空地)としての位置づけの明確化と平常時の活用	・地域の安心・安全なコミュニティを形成するため、防災に加えて地域の防犯などに関連するイベント、講習会等を積極的に実施	・防災・防犯関連イベント・講習会等

B欄 改 善 策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
	利用者ニーズに対応した質の高いサービスの提供(クラブハウスの研修・会議室の利用促進含む)	民間事業者等が有するノウハウを活用し、質の高いサービスの提供、PDCAサイクルによるサービスの改善(昼間の利用者拡大、会報の発行等)、コスト低減などを旨とする。	・指定管理者制度
	市道の一部未整備区間の早期整備と観戦マナーの啓発	本事業の計画区域外の未整備区間における歩道整備、広場利用者、利用団体、地域住民等への観戦マナーの啓発により所要の歩道幅員を確保し、安心・安全な歩行空間を形成する。	・市道改修事業(歩道整備等) ・関係者との協議による注意喚起・マナー啓発
	観音山ふれあいの里の利便性等の向上	老朽化施設の交換によるイメージ刷新、利用者ニーズへの対応や工夫を図る。	・老朽化した備品・器具の交換(観音山ふれあいの里)

- ・未達成の目標を達成するための改善策
- ・未解決の課題を解消するための改善策
- ・新たに発生した課題に対する改善策

フォローアップ又は次期計画等
において実施する改善策
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5ー③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
●	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4ー②)を再確認した。
●	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4ー③)を再確認した。
●	残された課題や新たな課題(添付様式5ー②)を再確認した。

添付様式5ー参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

なし

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指 標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無		フォローアップ計画		
			年度	年度	年度	年度						予定時期	計測方法	その他特記事項
指標1	広場及び公園利用者及び来訪者数	人/年	72,515	H18	100,000	H23	確定		132,227	○	あり	H24.4	平成23年度1年間の観音山総合運動公園(グラウンド及びテニスコート)、稲川グラウンド、フットボールセンター(人工芝コート及び屋内コート)利用者及び来訪者数について、評価基準日【平成24年3月31日】翌月に把握し、確定値とする。	-
							見込み	●			なし			
指標2	宇城市観音山ふれあいの里及びクラブハウス利用者数	人/年	1,354	H18	2,000	H23	確定		2,829	○	あり	H24.4	平成23年度1年間の観音山ふれあいの里、クラブハウス利用者数(宿泊施設)について、評価基準日【平成24年3月31日】翌月に把握し、確定値とする。	-
							見込み	●			なし			
指標3	NPO法人スポーツアカデミー熊本宇城の賛助会員数	人/年	0	H19	380	H23	確定		31	×	あり	H24.4	平成23年度のNPO法人スポーツアカデミー熊本宇城賛助会員数について、評価基準日【平成24年3月31日】翌月に把握し、確定値とする。	-
							見込み	●			なし			
指標4							確定				あり			
							見込み				なし			
指標5							確定				あり			
							見込み				なし			
指標6							確定				あり			
							見込み				なし			
その他の数値指標1	イベント開催回数	回/年	68	H19			確定		98			H24.4	平成23年度1年間の観音山総合運動公園、稲川グラウンド、宇城市立ふれあいスポーツセンターにおけるイベント開催数について、評価基準日【平成24年3月31日】翌月に把握し、確定値とする。	-
							見込み	●						
その他の数値指標2							確定							
							見込み							
その他の数値指標3							確定							
							見込み							
その他の数値指標4							確定							
							見込み							
その他の数値指標5							確定							
							見込み							

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標・成果の達成	うまくいった点	施設の利用者数、イベントの開催数といった指標は数値で計測することができるため、目標の達成状況を容易に確認することができた。	毎年度、年度途中において適宜、モニタリングをするための仕組みづくり(定期的な計測、実態確認、改善提案・実施)が必要である。
	うまくいかなかった点	-	
数値目標と目標・事業との整合性等	うまくいった点	-	目標、それを実現する事業、その効果を計測する指標の関係を明確に定めておく必要がある。
	うまくいかなかった点	目標3「地域防災性の確保…」に関する事業及び効果計測のための指標を明確に定めていなかったため、その効果を定量的に計測することが容易ではなく、結果的には定性的な効果計測にとどまった。	
住民参加・情報公開	うまくいった点	地域住民によるワークショップの開催は、観音山総合運動公園、市立ふれあいスポーツセンターの利活用の方向の検討のみならず、施設の認知度を高めるとともに、まちづくり活動へ向けた礎を築いた。	住民参加型の計画検討は、整備後の施設の利活用や管理運営に効果的であり、その後の幅広いまちづくり活動や活性化に向けた取り組みへの展開が期待できる。
	うまくいかなかった点	-	
PDCAによる事業・評価の進め方	うまくいった点	-	-
	うまくいかなかった点	-	
その他	うまくいった点	-	-
	うまくいかなかった点	-	

添付様式6ー参考記述 今後、交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

松橋駅周辺地区(現在、計画を作成中、H24事業実施予定)

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市のホームページに掲載	平成23年10月18日～10月31日 (平成23年10月18日公表)	平成23年10月18日～10月31日	担当課への郵送、持参、FAX、電子メール	宇城市企画部企画課 まちづくり推進係
広報掲載・回覧・個別配布	市のホームページ、担当課窓口で原案を公表している旨を市の広報誌に掲載	平成23年10月1日 広報うき	平成23年10月18日～10月31日		
説明会・ワークショップ	-	-	-		
その他	担当課窓口、各支所及び市立ふれあいスポーツセンター・クラブハウス(概要版のみ掲示)での閲覧	平成23年10月18日～10月31日 (平成23年10月18日公表)	平成23年10月18日～10月31日		

住民の意見	■1件 ■意見概要 ・さらなる地域振興のための目標・計画が必要。第二段階として「サッカーミュージアム、情報館の建設、多くの人々への教育・訓練・講習の実施」、第三段階として「体育保健高等専門学校、体育保健大学の設立・誘致」(市内在住者)
-------	--

(6) 評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	桑原隆広教授(熊本県立大学総合管理学部総合管理学科)	平成23年11月25日	宇城市企画部企画課まちづくり推進係	宇城市都市再生整備計画事業事後評価委員会設置要綱	独自に設置
その他の委員	河田信之氏(NPO法人スポーツアカデミー宇城理事、県サッカー協会理事、稲川・樋渡区嘱託員)、那須洋一氏(総合型地域クラブ事務局、拠点活用ワークショップメンバー、市バドミントン協会理事、市体育協会理事)				
審議事項※1		委員会の意見			
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	・方法書にしたがって事後評価を実施したことを説明し、適正に実施されたことが確認された。			
	成果の評価	・評価結果を説明し、その内容について確認された。			
	実施過程の評価	・実施過程について説明し、適正であると確認された。			
	効果発現要因の整理	・ふれあいスポーツセンター整備の効果として、街なかに見た目が綺麗な場所ができたこと、夜間でも練習している明かりが見えることなど、市民にも生徒にも良い影響があるとの意見があった(定性的な効果として事後評価シートに反映した)。			
	事後評価原案の公表の妥当性	・事後評価原案の公表方法を説明し、適正に公表されたことが確認された。			
	その他	-			
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	・事後評価の手続きを説明し、妥当であると確認された。			
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	・委員より次の意見があがった。内容を検討し、今後のまちづくり方策に反映した。 (市道関連) -市道からのサッカー観戦は観戦者のマナーによるところが大きい(ただし、歩道を整備したことで、以前よりも安全に観戦できるのも事実)。 (ふれあいスポーツセンター関連) -地域外と地域内の利用度に差があるのではないかと。地域の人がいかに使えるようにするかが課題。 -昼間は使用されていない。昼間の時間帯の有効活用策を検討する必要がある(例えば、高齢者の利用など)。 -NPO法人の会員数を増やすためのPRが必要。会員には、年1回、会報(アカデミー生の活躍、店舗での特典などを掲載)を送付してはどうか。 -地域をスポーツ拠点として、全国的なサッカーの中心地として確立するための利用方法を検討する必要がある(もう1面グラウンドを整備することも有効)。 -大会開催時など駐車場が不足している(現在は前面の店舗跡地駐車場跡地を所有者の好意により借用し、開放中)			
	フォローアップ	・フォローアップ計画を説明し、実施予定内容が確認された。			
	その他	・ふれあいスポーツセンターの規模を拡大することは、市内には宿泊施設が少ない現状から難しい、ふれあいスポーツセンター南西側交差点は右折レーンが必要である(右折車両が多いため、左折しにくい実態)という意見があった。			
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	・今後のまちづくり方策を説明し、その妥当性が確認された。			
その他		-			